

2021年6月15日開催 オンライン研修会 Q&A

「第4波を乗り越えよう！～北部地域の現状と感染予防対策～」

No.	質問
Q1	北部地域における変異ウイルスの状況について
A1	現時点で県内はアルファ株（従来のイギリス株）に置き換わっている。現在はデルタ株（従来のインド株）流入の調査に入っている。おそらく、1～2か月でデルタ株に置き換わる可能性が高い。
Q2	当初のワクチンで種々の変種に効果があるのですか？
A2	現時点での見解では、変異株の種類によっては多少効果が落ちるとされるも、基本的に有効である。ただ、ウイルスは変異していくものなので、半年後や1年後の変異に対する有効性まではわからない。
Q3	現在、やんばる地区のワクチン接種率と、ワクチン接種後の副反応が出ている人はどのような症例でどれくらいの割合で出ているのでしょうか。また、北部地域での一般接種はいつ頃になりそうですか？
A3	現時点での概要としては、5月で医療従事者の接種が済み、65才以上の方の市町村での集団接種が本格化し、医療機関での個別接種も始まりつつある。65才以上はいずれの市町村でも7月末で7～8割が接種する計画で進んでいる。 65才未満の方の接種は市町村（人口規模）により異なる。8月には65才未満も集団接種を継続することで市町村と調整中である。 (事務局)
Q4	市内の高齢者施設の接種と職員接種は同時並行で行ってもらえるのでしょうか？また、接種番号が無いとワクチン接種が出来ないのでしょうか？
A4	市内の施設への巡回接種はこれから調整し、順次すすめていくこととなる。その際には職員の接種も可能である。名護市の場合は、北部地区医師会病院で介護従事者枠を設けている（予約は名護市へ）。職員の接種券に関しては市町村により配布状況が異なる。介護従事者の優先接種に対応しているため、市町村へ問い合わせてください。 (事務局)
Q5	感染した時の施設としての対応について。 感染症が発生した際の対応及び利用者自宅支援の方法等について。
A5	病院での立場となり御幣があるかもしれないが、病院で患者の受け入れてきた経験として、施設で患者対応をし続けることは困難。県内で療養病棟や施設で陽性者が発生した際に、病院で留まる対応もとられたが、感染対策を維持し続ける難しさや職員への感染拡大もみられ、結果的には難しかった。 発生の際には速やかに保健所へ連絡し、早期に病院へつなげてもらうのが最善。北部地区においては、保健所、県北、医師会病院の連携もとられており、ホテル療養者に関しても、県北か医師会病院で診察は必須で、経過がみれる体制がとられている。北部の医療機関では県に提示してる病床以上に受け入れもしており、クラスターが多発するような状況でない限り、受け入れられる体制にある。
Q6	事業所への送迎時に人数を減らして行ってますが、車内での感染を防ぐのにより良い方法を教えて下さい。
A6	コロナ感染症ルートは第一が飛沫感染である。飛沫感染対策にはお互いのマスクの着用と換気が基本。掃除や拭き上げに労力を注いでも、飛沫を浴びると感染してしまうため、マスク着用と窓を開ける換気が必須。 感染対策には、可能な限りシンプルであることが求められる。必要でない場面でガウンや手袋を着用するなどしても不適切な扱いや過信で対策が疎かになっては意味がない。 また、感染対策は相手と自分との関係にもよるため、例えば相手がマスクを着けられない方であれば、自身がフェイスガードを着けるなど、相手の対策が弱まれば、自身の対策を強めるという考え方が必要。

6月15日時点の情報となります。